

## 絶滅危惧種カッコソウの今とこれから

桐生自然観察の森・カッコソウ協議会

### 1 カッコソウってどんな植物？

カッコソウはサクラソウ科の多年生植物です。4月の下旬から5月の中旬に紅紫色のサクラソウによく似た美しい花を咲かせます。サクラソウと違う点は、葉の形が細長くなく腎臓型なこと、また11月の降霜の頃まで、地上部を残すことなどです。

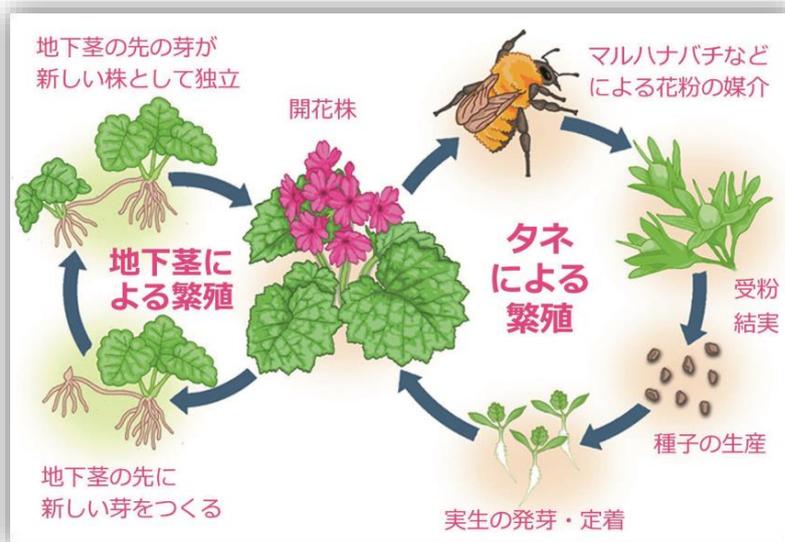


カッコソウ  
*Primula kisoana var. kisoana*



生育分布は、日本の桐生市とみどり市にまたがる鳴神山周辺のみです。四国にはシコクカッコソウが分布していますが、遺伝子分析の結果、区別できることがわかっています。

カッコソウは、繁殖に二つの戦略を持っています。一つは、「クローン繁殖」、もう一つは「種子繁殖」です。



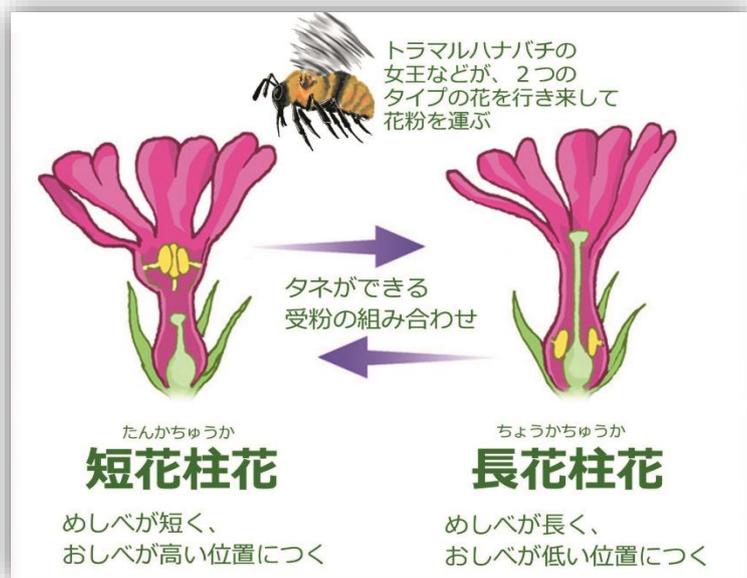
#### ○クローン繁殖

親株から地下茎を伸ばしてそこから新しい芽をだし個体を作る

#### ○種子繁殖

別々の遺伝子を持つ親株の花粉のやり取りでできた種が発芽して個体を作る

現在はクローン繁殖がほとんどで、タネによる繁殖ができていない群落はほとんどありません。



また、カッコソウの花形と花粉を運ぶ昆虫との関係も繁殖に重要です。

カッコソウは、異型花柱性という花柱の長いタイプ＝長花柱花と短いタイプ＝短花柱花の二つの花型を持ち、異なる花形の花粉のやりとりによって結実をする生態を持っています。また、その花粉を運ぶトラマルハナバチの口吻の長さや形がぴったりあっています。開花期とハチの活動期も合理的で、鳴神山ではカッコソウの開花期には、まだ花が少ないの

で、ハチたちは開花しているカッコソウの花訪れる回数が多くなります。そうすれば、受粉の可能性も高くなるというわけです。

## 2.カッコソウの絶滅について

このようなメカニズムを持った植物ですが、現在その数を減らしつつあります。その原因は、個体群の減少と環境変化、盗掘などです。個体群は個体数をクローン成長で増やすことはできるのですが、群落間の距離が離れすぎて、昆虫が花を行き交うことができないため、花粉が運ばれず結実が自然状態でほとんど確認することができなくなっています。

そのため、個体群の中のDNAが単純になり、群落の維持も危うくなっています。DNAの異なった個体から新しいDNAが作られなくなっている状況は種にとって危機的となり、平成24年度には国内希少野生動植物種(種の保存法)に指定されています。

## 3.カッコソウの保全に向けて

カッコソウの保全のためには、現在生息している遺伝子の数を減らさないこと、そして、カッコソウそのものだけでなく、取り巻く生物の多様性も保全していくこと、そしてその大切さを啓発していくことがたいへん重要になっています。

現在、カッコソウ協議会や各団体とが連携して、保全活動をつづけています。桐生自然観察の森では、生育域外での遺伝子個体の保護や増殖、自然個体から採集した種の発芽実験と栽培を実施しているほか、園内の移植地での生態観察(開花状況、訪花昆虫調査等)、カッコソウ観察会を通じての啓発活動も行っています。

カッコソウ協議会では、各団体の活動や問題点を話し合ったり、情報交換をしたり、保全に向けて試行錯誤しながら、みな努力しています。